

ります。

(前兆)

- ・がけからの水が濁る。
- ・がけに亀裂が入る。
- ・小石がバラバラ落ちてくる。



土石流危険渓流には看板が設置されています

災害への備え

恐ろしい土砂災害を防止するために、現在さまざまな対策が行われていますが、それだけでは十分に災害を防ぐことができません。被害を最小限に抑えるためには、一人ひとりが気象情報などに注意して早めに避難することが大切です。

雨に注意！

土砂災害の多くは雨が原因で起きます。長雨や大雨で危険だと思つたら、早めに避難しましょう。1時間に20ミリ以上、または降り始めてから100ミリ以上の降雨量になったら十分な注意が必要です。

土石流からの逃げ方！

土石流は速度が速いため、流れを背にして逃げたのでは追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向に対して直角に逃げるようにしましょう。

避難場所の確認！

普段から家族全員で避難場所や避難経路を決めておきましょう。災害が起きるとき、家族全員が一緒にいるとは限りません。また、大規模な災害時には携帯電話などが使用できなくなる恐れがあります。そんなときもあらかじめ避難場所を決めておけば安心です。

非常持出品の用意！

災害が起きてからでは遅いので、日頃から必要な持出品を用意しておきましょう。

〈非常食〉

缶詰、かんぱん、ビスケット
インスタントラーメン、飲料水
など

〈衣類〉

下着類、靴下、毛布、タオル
手袋、レインコート など

〈安全具・緊急薬品〉

ガゼ、ばんそうこう、包帯
三角巾、消毒薬、傷薬、
湿布薬、胃腸薬、目薬 など

〈道具類〉

携帯ラジオ、懐中電灯、
電池、マツチ、ナイフ、石鹼、
ティッシュペーパー、ビニール
袋、ローソク、ロープ など

〈貴重品〉

現金、貯金通帳 など

自主防災組織をつくる！

災害が発生した場合に、土砂崩れや倒木による通行止めなどが発生し、防災関係機関が早急に対処できないことも考えられます。災害の拡大を防ぐには、自分や家族の力だけでは限界があり、危険を伴う場合があります。

そんなときに、隣近所の人たちが集まってお互いに協力しながら初動時の防災活動に組織的に取り組むことが大きな力となります。災害発生時はもちろん、日頃から地域の皆さんが一緒になって防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」といいます。

どうやってつくる？

自主防災組織は、地理的条件、生活環境などから見て、地域として一体性を有する大きさが最も効果的に活動できる規模とされています。自治会など既存の組織をそのまま自主防災組織に兼ねさせる形が多くとられています。